

棋譜診断シート

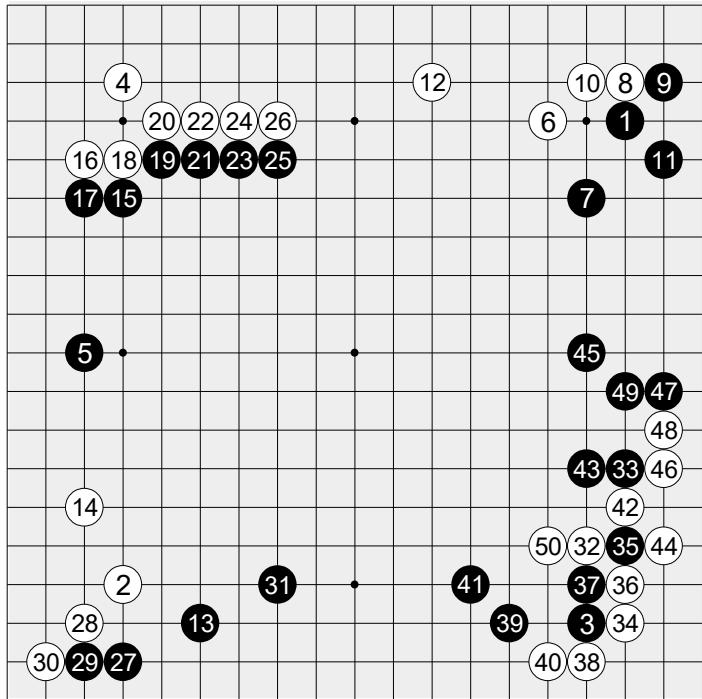
— 診断棋士 岩丸平 七段 —

ご依頼者様氏名：対局 太郎 様

対局情報：互先 黒番● 対局太郎 3級 VS 白番○ 暮敵二郎 3級 結果：150手完白中押し勝ち

診断日 2023年12月6日

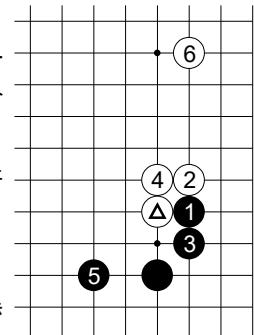
第1譜 1手目～50手目の実戦譜



*右上隅⑯からの⑯が「気合の良い」一手ですね。切られても戦える、という対局太郎様の作戦ですね。

*⑯から白に這わせることができれば、黒の作戦は大成功と言えるでしょう。

*31に構え、32の力カリからが第2ラウンドです。どの定石を選択するかで展開が大きく変わってきますね。33は対局太郎様らしい、戦い志向の一手ですね！

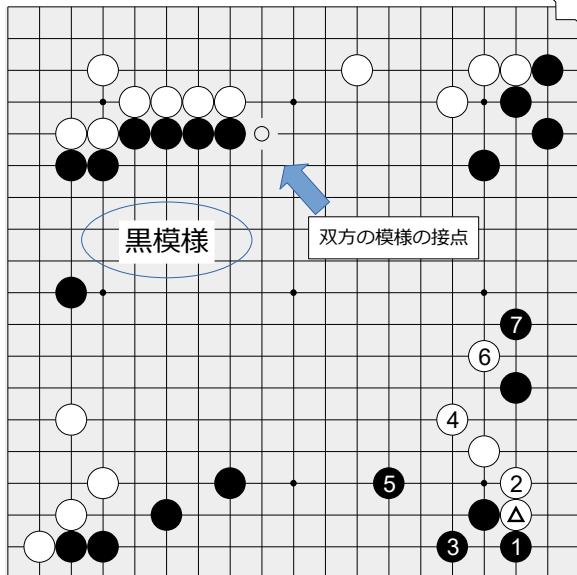


*右図のようなツケヒキ定石を選択されると地合い勝負になりそうです。これはこれで立派な進行です。

*50とノビて焦点は黒地をどこに作るかです。

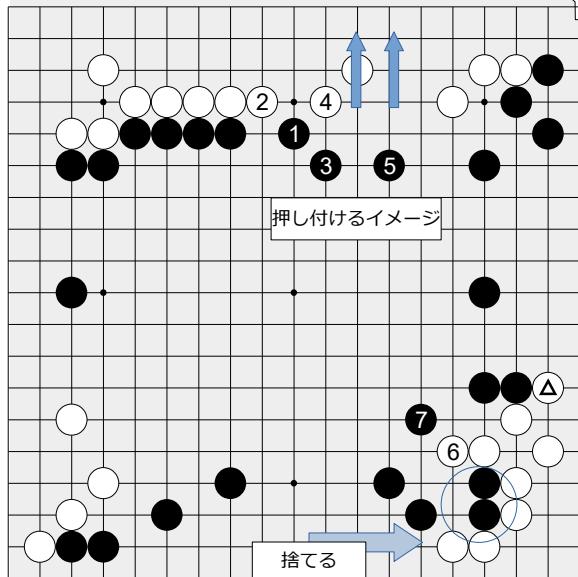
35手目・おすすめ手法

POINT



47手目・模様拡大

POINT



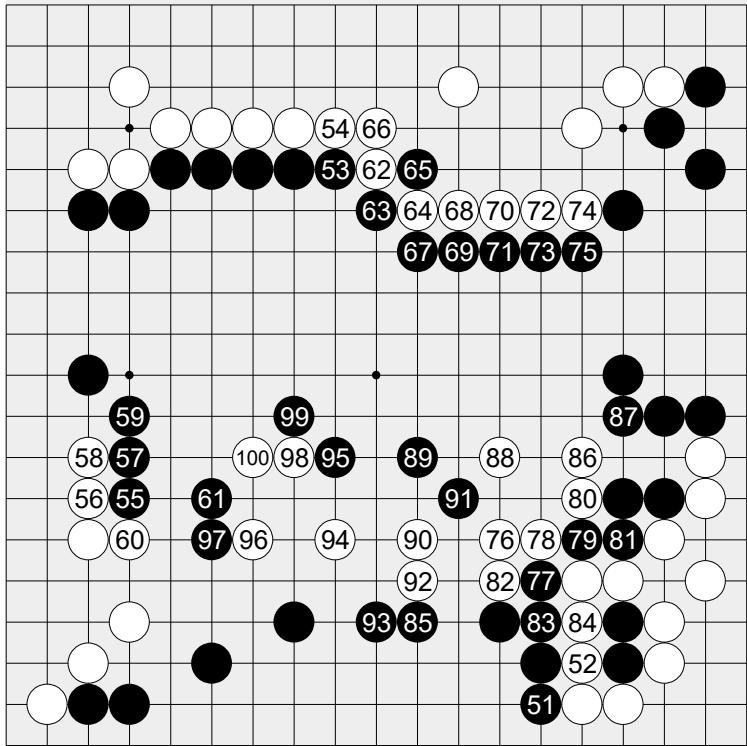
実戦は危険

+ 実戦譜 34△へ白がツケてきた場面の解説です。ここは①③としっかりとした形を作つてから⑤と下辺一帯（ここが一番大きくなりそう）を拡大する打ち方がこの場面ではピッタリでした。35、37はとても厳しい打ち方ですが、この後白に上手く打たれてしまいましたね。

中央を大きく

+ 実戦譜 46手目△に打つてきた場面。実戦では受けて「右辺を大事」にされましたね。ここでは、①が双方の模様の急所とも言えます。⑥にも2子には構わずどんどん捨てて大丈夫です。中央は地になるかが勝負ですが、黒の雰囲気がよくリードしているはずです。

第2譜 51手目～100手目の実戦譜



* 55～61まで良い所（ラインと表現します）を止めました。

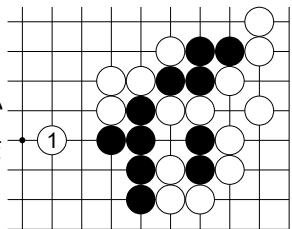
* 62～75は黒は模様が固まりますので、白地が少し増えたとしても黒が得をしているはずです。

* 77が「最大の岐路」でした！

周囲にも黒の壁があり際どい状況です。

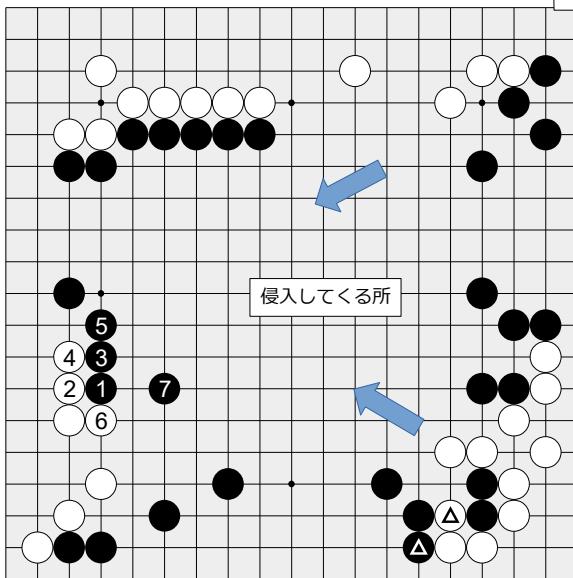
* 84はやや疑問手です。下図の①あたりに打たれていたら、取るのは少し難しくなっていました。黒は種石ですから、ここの石を捨てることはできません。

* 89、91と
眼の急所にしっかりと石がきいていま
すね！あともう
一息です！



55手目・侵入阻止

POINT



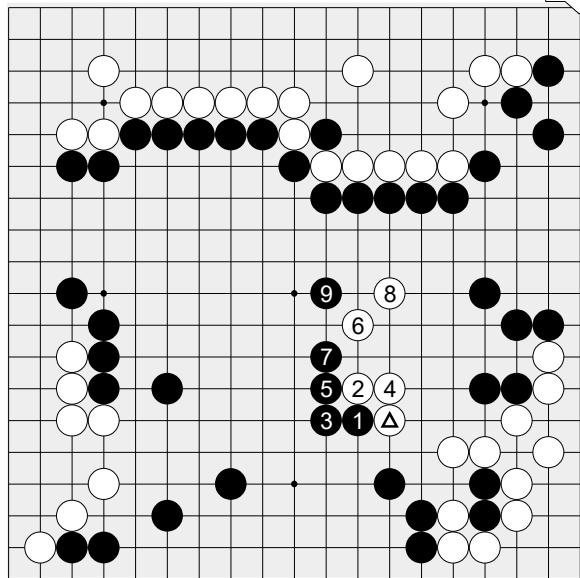
◇ 良い所を止めた ◇

+ 実戦譜 51、52手目△は双方やや疑問手で中央が急がれる所でした。そして、上図55手目の①～⑦がお見事。大きな模様を形成することができます。白はどこかで実戦のように危険な侵入をせざるをえなくなりました。

(入られるとそれはそれで黒も難しいですね)
+ この後、白は2力所の矢印からの侵入を目指します。黒は「囲う」か「取りに行く」かを決めなければなりません。さて、どうなるでしょうか。

76手目・最大の岐路

POINT



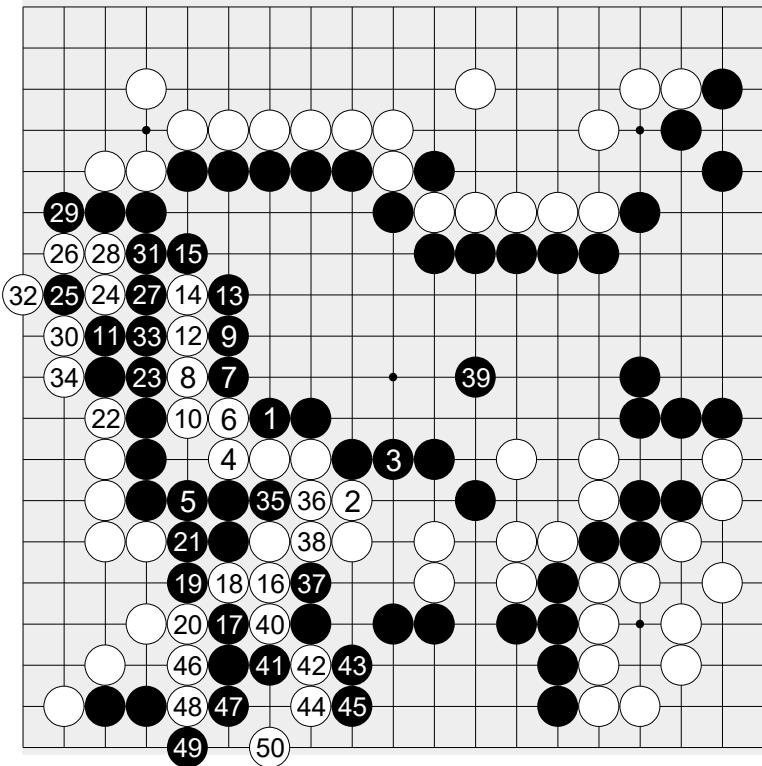
◇ 究極の選択 ◇

+ 実戦譜 76手目△へ侵入してきた場面。実戦の77は完全に「取りに行って」いますね？

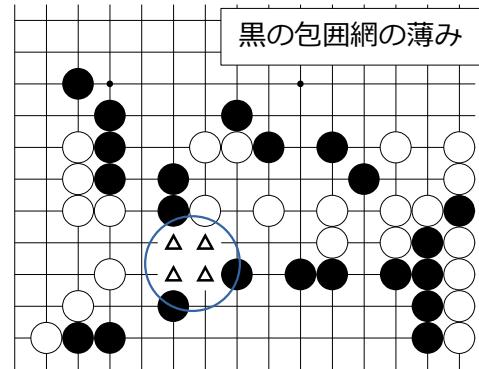
「攻める棋風」の対局太郎様らしい打ち方でとても好感が持てます！

+ 但し、と付け加えるならば上図の①から囲つていけそうか？という判断があったならなおします。⑨までこれでいかがでしょうか？
お互いの陣地が大き過ぎて計算が大変ですね。実戦は取れば「勝ち」です。周りの黒も活かして上手く攻めることができるでしょうか。

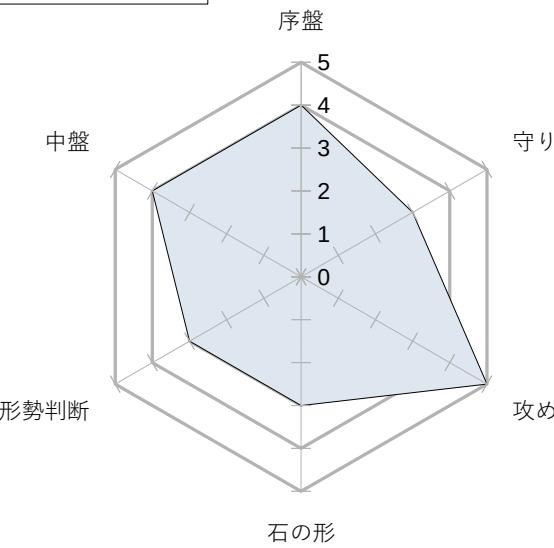
第3譜 101手目～150手目の実戦進行



*第3譜に入って中央方面からの折衝が続きました。そこは上手く止める事ができました。黒の危険な箇所は下図の△印のあたりです。ですから実戦譜①では△付近へ一手かけているのが最も「取れる確率が高い」と思います。⑯のところが少し手を焼きそうです。



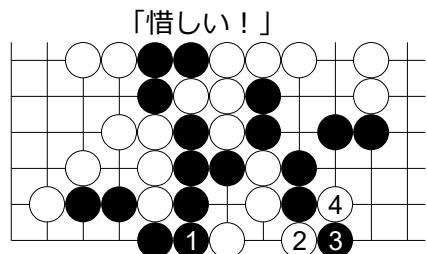
対局 太郎 様



レーダーチャート

*24からの手筋にもしっかり対応でいています。

*あとちょっとで「取れる」と思った時が危なかつたりします。49が敗着になってしまいました。50が絶妙手。下図のようにコウになってしまいですね。確かにこうなっては「逆転」でしょう。49では2子を取っていれば中央の白は全滅していましたね。



対局太郎様、ご依頼ありがとうございます。今回の棋譜でもらしさを存分に見せてくださいました。

19のハネ、35, 37の切りは大胆積極的で調子の良さが伝わってまいりました！

(ちょっとやり過ぎの場面もありましたが)

そして、ハイライトは77のキリ！やはり囲碁はこうでなくっちゃ面白くないとばかりにやっていかれましたね。

あと一步の所まで追い込んだのは見事な攻め方でした。最後は相手の妙手により残念な結果になりましたが、勝負は時の運。また元気な棋譜を見て頂くのを楽しみにお待ちしております！

—岩丸 平 七段（関西総本部所属）—